

加賀市ビジョン策定委員会 第3回会議 資料

加賀市ビジョン素案（構成要素）

01 メッセージ

02 ビジョン策定の趣旨と役割

03 理念体系

04 基本理念（政策の柱）

05 政策実現の姿勢

06 山頂へ導く道標（視点）

07 市政運営の原則

08 ビジョンの実現に向けて

- 全国的に人口減少や少子高齢化が進む中、社会環境の変化に柔軟に対応していくことが必要である。
- 加えて、若者流出、担い手不足、空き家、公共施設の老朽化などの課題が全国的に広がっている。
- しかし、我々には、歴史文化、ものづくり、伝統工芸、温泉地など、長年培われてきた多くの強みがある。
- 加賀市が持つさまざまな強みを生かして、地域の魅力の価値を高め、人や仕事、交流を生み出すことで、地域の活力を将来につないでいくことが大切である。
- 一方で、人口減少が続くことを見据え、将来の人口規模や地域の実情に合った形で暮らしを支え続けられるよう、まちの仕組みを持続可能な形へと整えていくことも必要である。
- 何よりも大切にしたいのは、住民一人ひとりが幸せを実感し、子や孫の世代まで安心して暮らし続けられ、若者からも暮らす場所として選ばれる加賀市をつくることである。
- 目指す幸せの姿をウェルビーイングとして捉え、人と人とのつながりや地域での支え合いを大切にしながら、「もっと住民が幸せな加賀市へ～元気を生み、健やかさを保ち、幸せを実感するまち～」を目指していく。

なぜ、今ビジョンを作るのか

1



社会環境の変化

- 住民ニーズの多様化
- 社会経済情勢の急速な変化
- 人口減少や少子高齢化

2



長期計画(総合計画)の課題

- 計画期間が10年と長い
- 将来を細かく規定するには限界がある

3



ビジョン策定

- 中期(2030年度まで)の将来像を示す
- 分かりやすい形で共有する



変化の時代に柔軟に対応するため、中期(2030年度(令和12年度)まで)の市の将来像をビジョンとして示す

役割

加賀市の確かな将来像や進むべき方向性を分かりやすく示す**指針**

項目	内容
位置づけ	市政運営の羅針盤
役割	市の確かな将来像や進むべき方向性を分かりやすく示す指針
期間	～2030年度(令和12年度)

加賀市ビジョン理念体系

山型・ロードマップ型

山頂(ゴール)

基本理念(政策の柱)

もっと住民が幸せな加賀市へ
 (元気を生み、健やかさを保ち、幸せを実感するまちへ)

政策実現の姿勢

未来に挑戦する

過去から学ぶ

市政運営の
透明性

産業の高度化・革新
 新産業の誘致
 新たな観光の創出
 未来を担う人材育成

伝統産業・文化の継承
 地域資源の磨き上げ・活用
 生活基盤の維持・再構築
 地域の支え合いの強化

財政の
持続可能性

山頂へ導く道標(視点)

地域の活力を
育みます

地域資源の
価値を高めます

子ども・若者の
学びと成長を支えます

暮らしの安心安全を支えます

基本理念(政策の柱)

もっと住民が幸せな加賀市へ

意味するもの

- 1 加賀市に住む人が、今だけでなく将来にわたって幸せを実感できるまち
- 2 子や孫の世代とともに安心して暮らし続けることができるまち
- 3 若者から暮らす場所として選ばれるまち

目指す幸せの姿 = ウェルビーイング(WELL-being): 身体的・精神的・社会的に良い状態

基本理念(政策の柱)

元気を生み、健やかさを保ち、幸せを実感するまちへ

元気を生む

- 産業や観光を活性化し、地域経済の力を高める。
- 文化・自然・スポーツを通じて、人の交流を広げる。
- まち全体に、にぎわいと活力を生み出す。

基本理念(政策の柱)

元気を生み、健やかさを保ち、幸せを実感するまちへ

健やかさを保つ

- 誰もが安心して暮らし、学び、働ける環境を整える。
- 医療・福祉・防災・交通・地域コミュニティなど、暮らしの基盤を支える。
- 人に加え、花や緑、里山、海岸などの自然環境の健やかさを育む。

基本理念(政策の柱)

元気を生み、健やかさを保ち、幸せを実感するまちへ

幸せを実感する

- 活力・安心・つながりを、幸せの実感へつなげる。
- 日々の暮らしの中で幸せを感じられるまちを目指す。
- これからも住み続けたいという思いを育む。

政策実現の姿勢

未来に挑戦する

- 社会や地域の変化に対応し、新しい考え方や技術、事業に積極的に取り組む姿勢
- 人口減少や少子高齢化など、従来の方法だけでは解決が難しい課題に対して、将来を見据えた新しい取組を進めることを表す。

政策実現の姿勢

過去から学ぶ

- 加賀市がこれまで培ってきた歴史、文化、伝統、地域の知恵を受け継ぎ、今後の市政運営に活かす姿勢
- これまで築いてきたインフラ、医療、福祉など、市民の暮らしを支える基盤や仕組みを見つめ直し、持続可能な形で次世代へつなげていく姿勢を示す。

山頂へ導く道標(視点)

1 地域資源の価値を高めます

- 加賀温泉郷、九谷焼、山中漆器、歴史文化、自然環境などの加賀市の魅力を磨き上げる。
- 高めた価値を、交流人口の拡大や地域経済の活性化、市民の郷土愛の醸成につなげる。

●「重点テーマ」

- ・地域の歴史・文化資産と伝統芸能を守り、次世代へ継承します
- ・地域拠点の特色を活かし、駅周辺を中心としたにぎわいと交流を創出します
- ・地域資源を磨き上げ、観光客を誘致し、地域の活性化を図ります
- ・体験型・高付加価値観光を推進し、インバウンド誘客と交流人口の拡大を図ります

山頂へ導く道標(視点)

2 地域の活力を育みます

- 地域産業の強みを伸ばし、新産業の創出との相乗効果により、新たな価値や雇用を生み出す。
- 交通の利便性を高めるとともに、地域コミュニティのつながりを育み、人や地域の交流を促す。

●「重点テーマ」

- ・地域産業の強みを伸ばし、稼ぐ力を高めます
- ・企業の成長と新たな産業・雇用の創出を進めます
- ・既存の交通手段を活用し、外出しやすい環境を整えます
- ・地域コミュニティのつながりを育み、多様な人の交流を広げます

山頂へ導く道標(視点)

3 子ども・若者の学びと成長を支えます

- 教育、子育て、若者の居場所、地域との関わりを充実させ、次世代を担う人材を育む。
- 若者の将来的な定住や、地域への関心の高まりにつなげる。

●「重点テーマ」

- ・加賀市教育ビジョン「BE THE PLAYER」を確実に推進します
- ・こどもと大人が共に育つ、「こどもまんなか」のまちづくりを推進します
- ・若者が就職・結婚・出産等の様々なライフデザインを描けるような環境を構築します
- ・産学官の連携により、若者の学びと成長を支えます

山頂へ導く道標(視点)

4 暮らしの安心安全を支えます

- 医療、介護、福祉、防災、インフラなど、市民生活を支える基盤を整える。
- 暮らしの安心安全を支え、すべての施策を進めるための土台を築く。

●「重点テーマ」

- ・医療・介護・福祉をつなぎ、支え合えるまちを実現します
- ・健康づくりを支え、健やかに暮らせるまちを実現します
- ・暮らしの安全対策を充実させ、安心安全な生活環境を実現します
- ・防災・消防・救急を強化し、災害に強いまちを実現します
- ・生活インフラを適切に維持し、安全で快適な暮らしを支えます
- ・公共施設・公共空間を再編・活用し、持続可能な暮らしを支えます

市政運営の原則

市政運営の透明性

- 市がどのような課題を捉え、どのような考え方や根拠に基づいて政策を決定しているのかを分かりやすく示す。
- 市民や地域の声、現場で生まれる気づきを丁寧に受け止め、理解と信頼に基づく開かれた市政運営を、市民とともに進めていくことを目指す。

財政の持続可能性

- 人口減少や社会情勢の変化を踏まえつつ、デジタル化による行政運営の効率化と市民サービスの向上を進め、歳入の確保や歳出の適正化、基金・市債残高にも留意しながら、充実した行政サービスや将来への投資を着実に進める。
- 未来の可能性を最大化するための戦略的決断として、「選択と集中」を徹底し、将来世代に過度な負担を残さない持続可能で健全な財政運営を行う。

ビジョンの実現に向けて

「もっと住民が幸せな加賀市へ」の実現に向け、ビジョンに掲げる方針をもとに、各分野の計画や予算編成等において、具体的な施策等につなげ、着実に実行していきます。

山頂へ導く道標に紐づく重点テーマを掛け合わせることで、新たな視点や分野を越えた施策等を生み出します。また、実施にあたっても、関連する施策等をつなぎ、それぞれの強みを生かして補い合うことで、相乗効果を生み出し、より大きな成果につなげていきます。

そして、進み具合や成果を確認しながら、必要に応じて見直しや改善を行い、次の施策等へとつなげていきます。

ビジョンの実現に向けた進め方

01

方針に基づく
施策等を設定

ビジョンに掲げる方針をもとに、具体的な施策等を設定します。

02

施策等を実施

関係者と連携しながら、一つひとつの施策等を着実に実行します。

03

取組状況や
成果を確認

各施策等の進み具合や成果を確認します。

04

見直し・改善

確認した結果を踏まえ、必要に応じて施策等の見直しや改善を行います。

05

次の施策等へ

新たな施策等の検討や、より効果的な施策等へとつなげていきます。